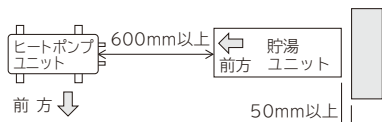


据付時の制約事項

●[水道直圧給湯]フルオート 薄型タンク

■ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付制約

●標準配置 [上から見た図]

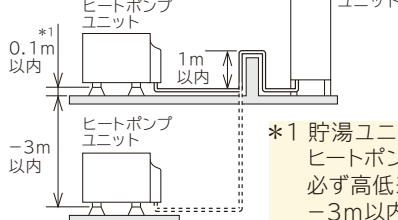


●逆配置 [上から見た図]



■ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付制約

[横から見た図]

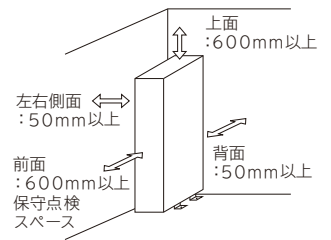


*1 貯湯ユニットとヒートポンプユニットは必ず高低差+0.1m~-3m以内に設置してください。

- 配管全長 : 15m以内
- 曲り箇所 : 10か所まで
- 高低差 : +0.1m^{*1}~-3m以内
- 鳥居配管 : 1m以内 (1か所まで)
- 配管材質 : 95℃以上の耐熱性、耐食性を有するもの(銅管等)
- 配管サイズ : φ12.7mm
- ペアチューブは使用不可

■貯湯ユニットの据付制約

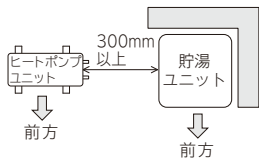
左右両側面共十分なスペースを確保できない場合は背面を450mm以上空けて据え付けてください。



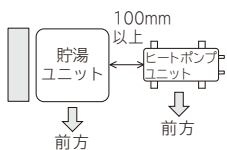
- [水道直圧給湯]フルオート 標準タンク(高効率)
- [水道直圧給湯]フルオート 標準タンク
- [水道直圧給湯]フルオート 標準タンク(寒冷地仕様)
- [水道直圧給湯]フルオート 標準タンク(井戸水対応)
- [水道直圧給湯]フルオート 標準タンク(井戸水対応寒冷地仕様)
- フルオート スリムタンク
- フルオート 標準タンク
- フルオート 標準タンク(寒冷地仕様)
- 給湯専用(オートストップ機能付)
- 給湯専用
- フルオート(床暖房機能付)

■ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付制約

●標準配置 [上から見た図]

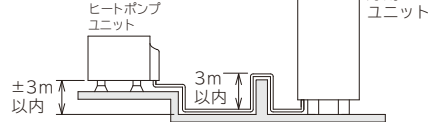


●逆配置 [上から見た図]



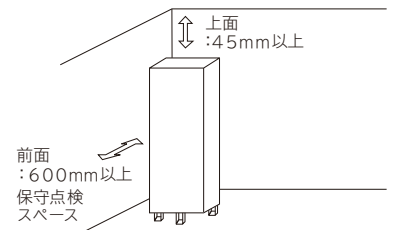
■ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付制約

[横から見た図]



- 配管全長 : 15m以内
- 曲り箇所 : 10か所まで
- 高低差 : ±3m以内
- 鳥居配管 : 3m以内 (1か所まで)
- 配管材質 : 95℃以上の耐熱性、耐食性を有するもの(銅管等)
- 配管サイズ : φ12.7mm
- ペアチューブは使用不可

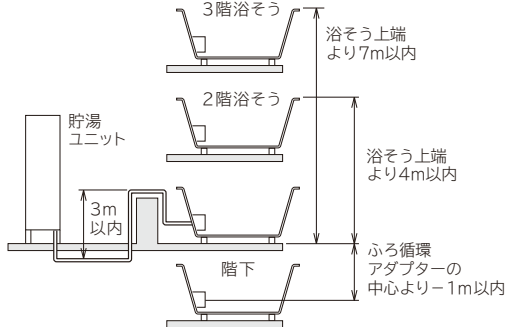
■貯湯ユニットの据付制約



※貯湯ユニットは北海道地域および最低外気温が-15℃を下回る地域では屋内に設置してください。

■貯湯ユニットと浴そう間の据付制約

[横から見た図]



- 配管全長 : 15m以内
- 曲り箇所 : 10か所まで
- 鳥居配管 : 3m以内 (1か所まで)
- ※ふろ循環アダプターの中心より

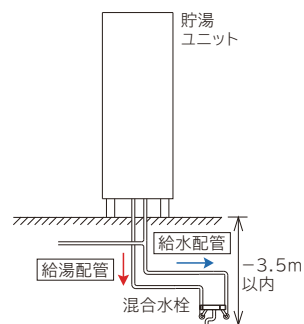
1mを超える階下のふろ配管はできません。
※フルオート スリムタンク、フルオート 標準タンク、フルオート 標準タンク(寒冷地仕様)、フルオート(床暖房機能付)は浴そう上端が4mを超える場合は、ふろ配管はできません。

ふろ配管施工例

○正しい施工例

×誤った施工例

■貯湯ユニットと混合水栓との据付制約



※階下給湯を行う場合は、階下の混合水栓と貯湯ユニット設置面までの高さは、-3.5m以内としてください([水道直圧給湯]は、-3.5m以上も可能です)。

■ヒートポンプユニット単体の据付制約(3方向に障害物がある場合は設置不可です)

